相模國一之宮

寒川神社流鏑馬

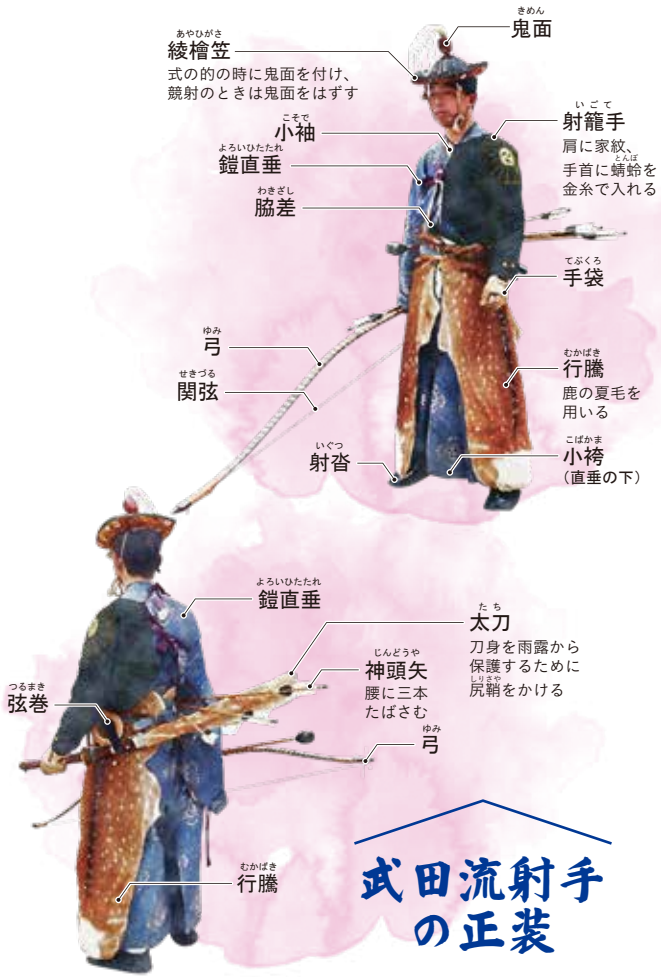
流鏑馬 9月19日
例　祭 9月20日

寒川神社流鏑馬神事の概説

六世紀頃、国内外の争乱に心を痛められた第二十九代・欽明天皇は、神功皇后（第十四代・仲哀天皇の皇后）と応神天皇（第十五代）の二柱を豊前国宇佐（現在の宇佐神宮）に祀り、天下泰平・五穀豊穣を祈願するとともに、その神前にて馬上から邪悪に見立てた三つの的を射さしめたのが「流鏑馬神事」の起源であるとされる。

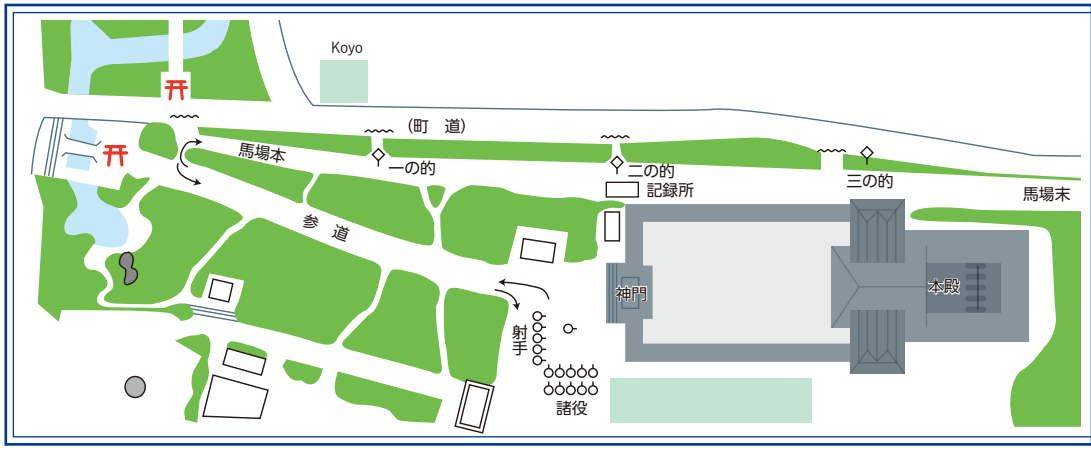
寒川神社の流鏑馬は、古くより「馬太夫」と呼ばれる社人により奉仕されてきたが、時代の推移とともに馬の調達や技術の継承が困難となり、一時中断の危機を迎えた。しかし、伝統ある行事を後世に伝えたいとの強い思いから、昭和四十一年に大日本弓馬会の協力を得て「武田流」により復興され今日に至る。

当社の神職も実際に射手として奉仕しており、豪華絢爛かつ勇壮華麗な流鏑馬を維持・継承するため、日々研鑽を積んでいる。



武田流射手の正装

〒253-0195
神奈川県高座郡寒川町宮山3916
相模國一之宮 寒川神社
☎0467(75)0004
http://samukawajinjya.jp



馬場配置図

寒川神社流鏑馬神事次第

一、出陣

奉行の打つ「寄せの太鼓」を合図に射手・諸役一同が神門前に勢ぞろいする。

二、鏑矢奉献・願文奏上の儀

奉行は天長地久の式に用いる鏑矢を神前に奉献し、願文を奏上したあと、鏑矢を拝受して退出する。

三、天長地久の式

奉行より命を受けた射手が中央に進み「五行の乗法」を行う。乗馬して左へ三回、右へ二回、馬を回して中央の位置で馬を止め、神前に黙札したのち、鏑矢を弓につがえて天と地に対して満月に弓を引き、天下泰平・五穀豊穣を祈念する。式が終わり奉行・射手・諸役は行列を組み「序の太鼓」に合わせて馬場に進む。

奉行は記録所にあがり、諸役が持ち場に就いたのを確かめて「破の太鼓」を打つ。馬場の本・末の扇方は扇で準備完了の合図を送り、射手は順番に「素馳」を行う。

四、奉射（式の的）

馬場には三つの的が立てられ、射手は馬を全速力で走らせながら、腰の鏑矢を抜いて弓につがえ、一の的から次々に射て馬場を駆抜ける。

的は一尺八寸四方で、檜板を網代にあみ、その上に白紙を張って青黄赤白紫（黒）の五色で丸的をあらわし、的の後ろに四季の花を添える。

五、競射

的は、径三寸の土器二枚を合わせて、中に五色の切紙を入れた小的に変わる。的中すると土器は砕け、中の五色紙は花吹雪のように飛散る。こうして競射が終わると奉行は記録所で「止の太鼓」を打ち鳴らし、奉行・射手・諸役は行列を組んで神門前に向う。

六、凱陣の式

神門前に勢ぞろいした後、競射の最多的中者は式の的を持って奉行の前に進み出て跪座する。奉行は扇を開いて骨の間から的を検分する。扇をたたみ太刀の鯉口を切ったとき、太鼓を「ドン・ドン・ドン」と三打し、奉行の「エイ・エイ・エイ」の声に続いて射手・諸役一同「オー」と唱和、これを三回繰返して勝どきを上げる。（これは首実検の意味を現している。）

七、直会

凱陣の式が終わり神門にて、奉行・射手・諸役の順に神酒を拝戴して流鏑馬神事はすべて終わる。